

令和4年1月

各位

板硝子協会
会長 清水 正

『板ガラス産業の2050年カーボンニュートラルへのビジョン2022』について（お知らせ）

板硝子協会は政府が掲げる「2050年カーボンニュートラルの実現」に向けた会員3社（AGC株式会社、日本板硝子株式会社、セントラル硝子株式会社）の方針、意向を集約した『板ガラス産業の2050年カーボンニュートラルへのビジョン2022』を策定いたしました。

政府の掲げるカーボンニュートラルの実現とは、令和2年10月に当時の菅首相より政府目標として2050年実質カーボンネットゼロが表明され、更に令和3年4月の地球温暖化対策推進本部及び気候サミットにおいて、2030年に温室効果ガスを46%削減（これは従来の削減目標を7割以上引き上げる野心的な目標であります。）することを目指すと発表されています。

板硝子協会では、この目標を強く意識し、この野心的な目標に板ガラス産業を挙げて挑戦していく強い意思を表明するビジョンを策定したものです。

ビジョンの骨子は以下のとおりです。

1. 基本方針

- ・2050年カーボンニュートラルという国家的な課題に業界を挙げて挑戦する。
- ・提供する製品のライフサイクルでのGHG削減を推進する。

2. 2050年カーボンニュートラルに向けた板ガラス産業の取り組み

- (1) 各個社において、板ガラス製造の原燃料溶融プロセスでのCO₂排出量削減を目指す。
- (2) 例えばCCSやCCUSのようなCO₂排出量削減効果が期待できる方策の検討を開始する。
- (3) 提供する製品のライフサイクルでのGHG削減を推進する。

「エコガラスS」や「三層ガス入り複層ガラス」などの普及を加速するとともにカーボンニュートラルの達成に必要な高性能ガラスの開発を推進する。

一方で、この政府が掲げた目標は、極めて野心的な目標であることから、現在活用できる最先端のBAT（Best Available Technology）技術を導入しても、到底達成できない極めて困難な目標となっています。板硝子協会会員3社では目標達成のためさらに技術革新を追求し、よりInnovativeな技術の確立によりこの難局を打破すべく努力を続けて参ります。

このため、今回のビジョンはあくまで現状におけるビジョンとして“2022”のタイトルをつけておりますが、今後は技術の進展に応じこのビジョンについても逐次改訂して参ります。

【従来の取り組み】

板硝子協会は経済団体連合会が主催する低炭素社会実行計画（2021 年度よりカーボンニュートラル行動計画に名称を変更）に参画し、板ガラス製造由来の CO₂排出量削減に継続的に取り組み、本行動計画で掲げた 2020 年度目標を達成するなど一定の成果を上げております。

また、経済産業省の審議会であります産業構造審議会 産業技術環境分科会 地球環境小委員会へ毎年取り組み状況の報告も行っております。

これまでの CO₂排出量削減に向けた主な施策として、①一部国内窯へ CO₂排出量を低減する全酸素燃焼技術の導入 ②板ガラス製造窯の集約・休止 ③LNG など CO₂排出量を低減する燃料への転換 ④生産条件見直しによる燃料および電力消費量の削減 ⑤輸送のロットアップ・効率化などを講じて参りました。

また、家庭における熱損失を軽減し、省エネルギーを進めることで民生部門の CO₂ 発生量を削減するエコガラス（Low-E 複層ガラス）の拡販を通じ他部門（製品サービスなど）における省 CO₂ に大きな貢献をして参りました。

板硝子協会では、Low-E 複層ガラスの普及を推進するため「エコガラス」という共通呼称で、一般消費者に対して「エコガラス」の使用を通じた CO₂ 削減と地球温暖化防止を呼び掛ける活動を 2006 年 4 月より業界全体で展開し、更に 2019 年 6 月からは、より高性能なタイプの Low-E 複層ガラスを「エコガラス S」として商標制定し、高性能 Low-E 複層ガラスの普及を更に拡大する活動を継続して参りました。

この結果、板硝子協会独自の「エコガラス」普及率調査では、2020 年度には新築の一戸建てが 86.4%、共同住宅が 56.5%の普及率（戸数）となっており、普及が着実に進んでおります。

以上